

阪神大震災で海外から受けた恩を返そうと、国際的な支援を始めた。日本の遺児がトルコや台湾の被災地に向かい、同じ境遇の子どもたちと交流。あしなが運動は世界に広がっていった。

親を理不尽な形で失う経験をした子ども同士は、言語を超えて通じ合うものがあります。成長した遺児たちは「次は私の番だ」と、ボランティアとして被災地でケア活動をするようになります。



ります。阪神の遺児たちは2001年に起きた米同時テロのニューヨークや08年の中国・四川大地震、10年のハイチ大地震などの現場を訪れ、親を失って間もない遺児と遊びながら自分の経験を語り伝え、見違えるように成長していきました。

アフリカのウガンダ共和国で急増していたエイズ遺児への支援も始めました。現地でリーダーとなる若者を育てようと、世界で最貧困といわれるサハラ砂

⑤ 遺児の心にかける虹

あしなが育英会会長 玉井 義臣さん

漠以南出身の優秀な学生が欧米や日本の大学で学ぶ「あしながアフリカ遺児高等教育支援100年構想」も始めました。寺子屋を建てて食事を提供し、高校卒業までの奨学金を出しています。

11年には東日本大震災が起きた。今も支援は進行形だ。

支援を世界に拡大 100年先見て人育てる

あの日はウガンダに到着したばかりで、テレビに映る津波の衝撃に荷を解くこともなくそのまま帰国しました。帰路の飛行機で寝ずに考え、生き延びてもらうために返済不要の特別一時金を出すと決めました。仙台市に事務局を置いて遺児を探し、世界中からの募金を元

に贈られる「エレノア・ルーズベルト・ヴァルキル勲章」を受章した。日本人では元国連難民高等弁務官の緒方貞子さん以来、2人目だ。

あしなが運動の行く末を静かに考える時間も増えました。今年で母が亡くなり57年、妻の由美は三十三回忌です。休まず走り続けてこられたのは、この事業が私にとって愛する2人との死別の悲しみを癒やす「グリーフワーク」だからだと思います。個人の恨み節があってもそこから、団体の後継者を考えるのは容易ではありません。

に0歳から大学院生までの2083人に特別一時金を282万円ずつ配りました。心のケアの蓄積を生かし、東北の3カ所に、遺児が感情を吐き出せる施設「レインボーハウスを建てました。

私は本来「大阪のええかげんなおっさん」です。同じ思いを持つ人が集まり、一生懸命やってきたことで社会が少しは動いたかなと思います。これからも全人生を子どもたちと一緒に生きていきます。

あしなが運動55年の式典で奨学生らと



パーキンソン病を患っているが症状は軽く、つえ一本でしっかり歩く。15年には教育や人權分野で世界的に貢献した人物

(松浦奈美が担当しました)